

# CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

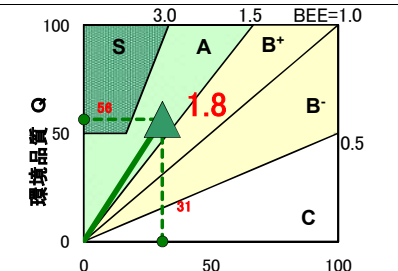
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	株式会社アマダホールディングス富士宮事業所モジュール工場新築工事	階数	地上2F	
建設地	静岡県富士宮市北山字坂下上6850	構造	S造	
用途地域	用途地域指定なし、法第22条区域	平均居住人員	140 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)	
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2019年4月12日	
敷地面積	(仮想)34100.00 m <sup>2</sup>	作成者	清水建設株式会社名古屋支店一級建築士事務所	
建築面積	16,658 m <sup>2</sup>	確認日		
延床面積	17,440 m <sup>2</sup>	確認者		

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.8** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★



### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

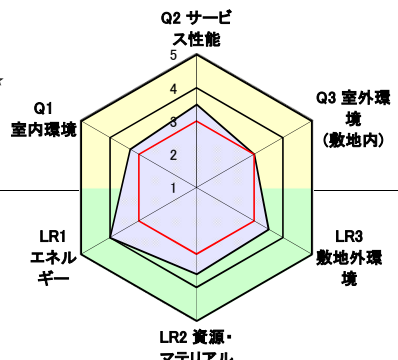
②建築物の取組み 78% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 78%

④上記+ 78%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

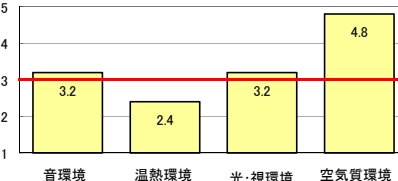


### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

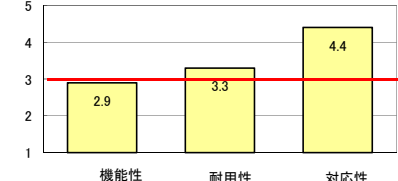
#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3




#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.5



#### Q3 室外環境(敷地内)

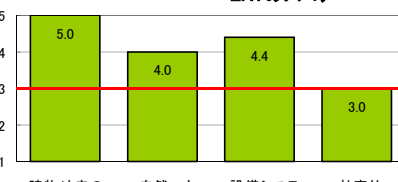
Q3のスコア= 3.0



**LR のスコア = 3.7**

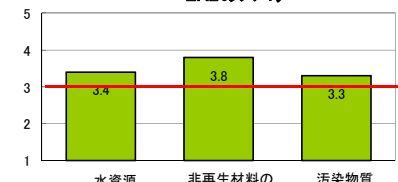
#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0



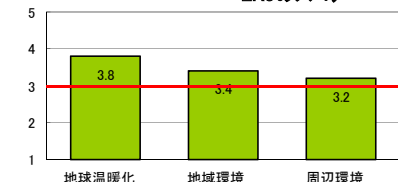
#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6



#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5



3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。 計画建物の外装材に断熱サンドイッチパネルを採用し、建物内の温熱環境に配慮した。 また、トップライトやハイサイドライトを各所に設けることで、照明設備の電力消費量を削減する計画としている。		その他
<b>Q1 室内環境</b> F☆☆☆☆建材、VOCの放散量が少ない建材の全面的な採用、空気取り入れ口の敷地周辺状況を勘案しての設置など、空気質環境に配慮している。	<b>Q2 サービス性能</b> 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせ、かつ荷重にもゆとりをもたせることで建物の対応性に配慮している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内の既存樹木を保存し、生物環境の保全に配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> 断熱材の強化、Low-E複層ガラスの採用など、建物の熱負荷抑制に配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> リサイクル資材の積極的な採用、フリーアクセスフロアの採用など非再生性資源の使用量削減に配慮している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 建物運用時のライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率の抑制、大気汚染の原因となる燃焼器具を採用しないなど、地球温暖化へ配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される